



あなたが裁判を変える

裁判員制度とは

第1号法廷



【平成21年5月スタート】



裁判員制度

裁判員制度は、無作為に選ばれた市民が裁判員として刑事裁判に参加し、裁判官と協力して、被告人が有罪か無罪か、有罪の場合にはどのような刑が適当かを決定する制度です。

三重大学人文学部・助教授
Ito, Mutsumi 伊藤 睦
【URL】 <http://www.human.mie-u.ac.jp/>

津地方裁判所
第1号法廷内

◎私が裁判員？

市民の中には、人を処罰することになるような深刻な決定を自分たちで行うのは荷が重すぎると感じる人がいるかもしれません。そうでなくても、法律や裁判をよく知らないのに裁判官と対等に議論することができるのかと、不安を感じる人は少なくないでしょう。

しかし、裁判で判断を求められる事柄の多くは、人の行動や事象に関するものです。

◎それぞれの視点・感覚・言葉で

法の知識は裁判官に及ばなくても、裁判員は各自の人生経験に基づいて、人の行為や事象に関する知識を有しているはず。裁判員に求められているのは、その知識に照らし合わせながら、公判廷に提出された証拠を検討し、検察官の主張する通りの行為を被告人が行ったと言えるかを考えることなのです。そのように各自の知識を突き合わせて議論を尽くす

裁判員を選ぶ

毎年、裁判所ごとに作成された裁判員候補者名簿の中から事件ごとにくじで裁判員に選ばれます。



※裁判員4人、裁判官1人の場合もあります。

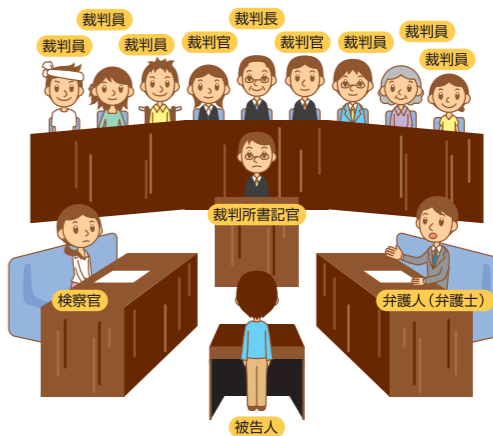


これまでの刑事裁判

裁判員の仕事

裁判を行う
法廷で証人の話を聞いたり証拠を調べたりします

公開



裁判員の意見は、裁判官と同じ扱いになります。

国々が裁判に参加する制度は、世界の国々で広く行われています。

評議

裁判員と裁判官で有罪・無罪か有罪の場合どのような刑にするのか内容を決めます

公開

判決

裁判の種類

- 民事裁判 ●刑事裁判
- 家事審判・家事調停 ●少年審判

※裁判員が携わるのは、刑事裁判のうち無期懲役・禁固にあたる罪か、故意に人の身体や生命を傷つけた場合のような重大事件に限られています。
※実際に市民の皆さんが裁判員の役割を担当するのは、およそ60～70分の1の確率だといわれています。

ことは、実は法の理念に非常に合っています。というのは、裁判では、検察官が、疑いを挟む余地がないところまで被告人の有罪を証明する責任を負うので、裁判官も含めて年齢、性別、職業等が異なる人々全員が検察官の主張に納得できたか、検察官がその主張の重大な要素を証明し尽くしたかということを様々な角度から検討していくことは、妥当な結論を導くために最も望ましいことなのです。

◎市民の力で裁判を変えよう！

実際に難しいのは、報道等から得たイメージを白紙に戻して、冷静に証拠に基づいて判断することでしょう。しかし、一度きりの経験として裁判に臨む市民だからこそ、一つ一つの事実を慎重に検討して結論を出すことができるはず。自分たちがいつ関係することになるかわからない裁判を、より理解しやすく、市民感覚に合致するものにするためにも、市民の

力で裁判をより良い方向へ変えていくことが是非とも必要なのです。